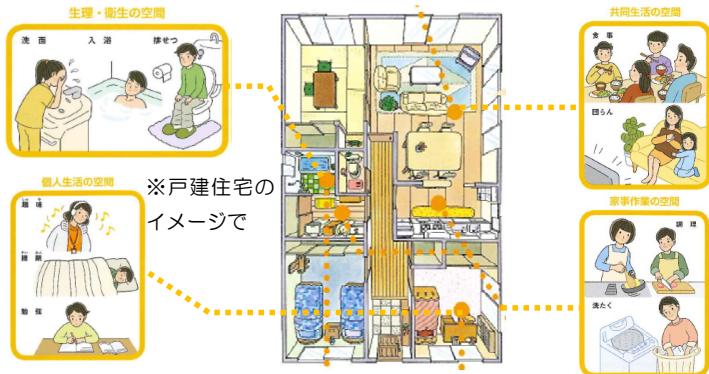


② 家族の生活と住まいのかかわり

☆ねらい 家族がどのような生活を重視するのかにより、住空間の使い方が異なることを理解する。また、家族が共に暮らすためには、住生活に対する思いや願いを互いに尊重しながら調整して住空間を整える必要があることを理解する。

○ より良い住まいにするために、自分でできることを考え、家族と相談して実行しよう。



○ 集まって住むためのルールを考えよう。(関連事項 : p. 10)



・騒音

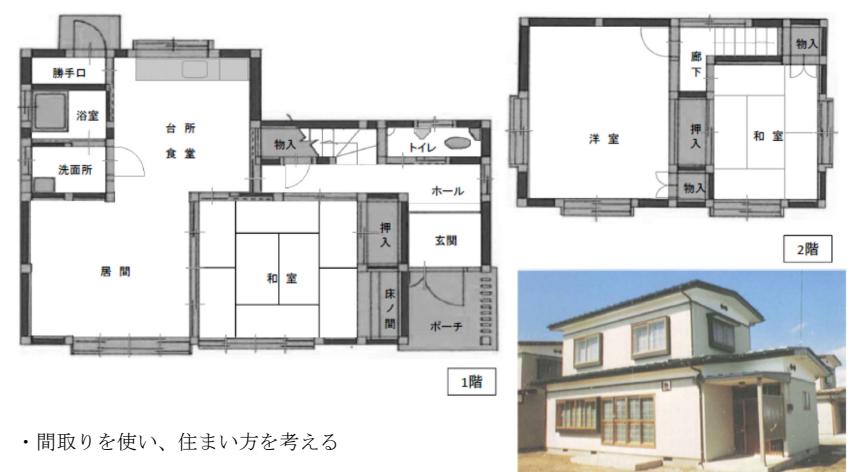
・給排水

・その他

【ワークシート】

○ 住まいの空間の使い方を考えよう。

- ・将来の家族構成を考える
(例: 父、母、自分・・・)



- ・間取りを使い、住まい方を考える

- ・使い方(室名)を書き込む

- ・このようにした理由や工夫した点をまとめる

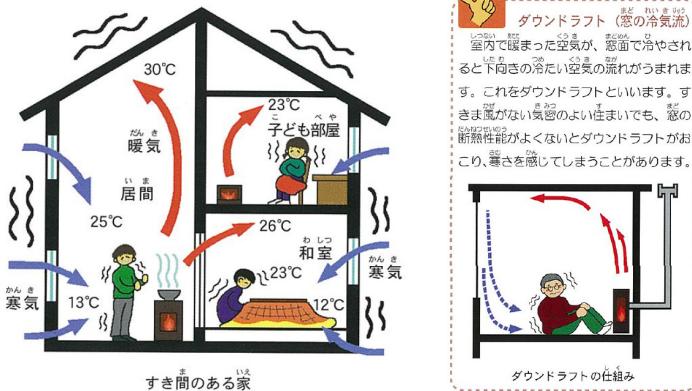
③ 快適で安全な住まい

☆ねらい 家族が安心して快適に住まうためには、住空間を安全な状態に整える必要があることを学び、家庭内の事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方について理解する。

○ 快適な住まいの条件について考えよう。



・快適な住まいの条件を整理



・家にすき間があると、どう感じるか

・隙間がなくても冷気流が生まれる（ダウンドラフト）

【ワークシート】

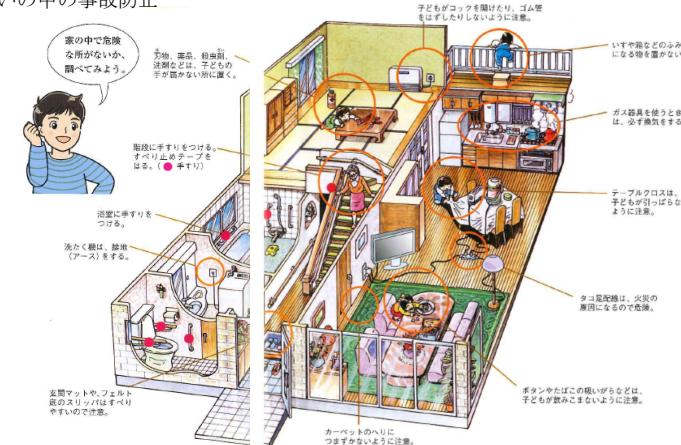
○ 家庭内の事故を防ごう。

・家庭内事故死の主な原因

青森県 総数 430	0 歳	1~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~29 歳	30~44 歳	45~64 歳	65~79 歳	80~ 歳
転倒・転落	22.2	13.6	27.3	—	36.4	11.1	80.0	11.1	21.0
溺死	28.3	4.5	0.0	—	0.0	55.6	0.0	11.1	21.0
窒息	27.2	81.8	54.5	—	0.0	33.3	0.0	0.0	24.9
その他	22.2	0.0	18.2	—	63.6	0.0	20.0	77.8	33.1

(厚生労働省「平成27年人口動態統計」2015)より作成

・住まいの中の事故防止



・転倒、転落の防止

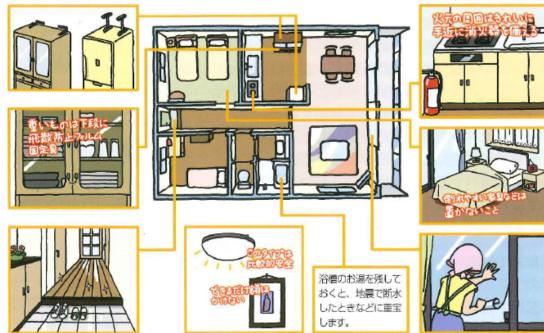
・ガスの安全（不完全燃焼に注意）

・高齢者、幼児の安全上、住宅の平面図に注意すべきポイントを書き込む

④ 安全を考えた住まい方

☆ねらい 安全な住まい方についての課題を解決するため、基礎的、基本的な知識を活用し、安全などの視点から住空間の整え方について考え、工夫できるようにする。

○ 住まいを安全空間にしよう。



照明器具にも注意しよう

シャンデリア状の照明器具が地震で落したりすると大変危険です。また、搖れに弱い形状の照明器具に対しては注意が必要です。収納のスタンダードなども転倒のおそれがあるのです。

天井部にクリップで固定するタイプのカバー付照明が、地震の際には危険が少ないとされています。

ガラスの飛散防止を

地震のとき、ガラスの原因で最も多いのは、散乱したガラスで手足を切ってしまうのです。

あらかじめ、破片が散乱しないように予防用のテープなどで防護策を講じましょう。

家具類の転倒防止対策を

大きな地震が起れば、書棚やタンスの下段になったり、激しい揺れで飛び出でるビアーやテレビの衝撃を受けてたり、思ぬ大けがをする危険があります。上図で示したように、できる限りの対策をとっておきたいのです。

家にいて地震が起きたら

まずは、身の安全を確保します。特に頭を守り、ゆがむおさまるのを待ちましょう。

火を使っていた場合は、ゆがむおさまってから、あわてずに火を止めます。出した時は、落ちついで消したり。

それから、転倒した家具やガラスの破片などに注意しながら、あわてずに窓やドアを開け、出口を確保しましょう。

万が一ガスのにおいがしたら、爆発を防ぐため、換気扇や電気のスイッチには絶対にさわらないようにしましょう。ガス管とメーターの元栓を閉め、窓を開けて換気し、ガス会社に連絡しましょう。

震後は落物などの危険があるので、外に出るとときは十分注意が必要です。自宅を出て避難することになったら、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めておきましょう。不在の家族へのメッセージも、残しておくとよいでしょう。

常に整理整頓を心がける

地震でドアの近くにある大型家具が倒れて、ドアが開けられなくなったり、とっさに避難するときに階段や廊下に突然と面しているのが邪魔になったりすると、思わず転倒につぶりかねません。

玄関や物置代わりにしていると、スキー用具やゴルフバッグが掛けられてしまっていると、廊下で折れてしまうこともあります。

非常にそれは脱出路の確保が最優先になります。そのためにも整理整頓を常に心がめましょう。

寝室にはできるだけもの置かない

阪神・淡路大震災のように、就寝中に地震が襲うこともあります。寝室に倒れやすい棚などは置いてあると、そのまま下敷きになってしまって大惨事がなるかもしれません。できるだけ寝室には避けられる家具は置かないようにしましょう。また、非常用持ち出し袋などは、眠る場所の近くにあわざ、サッと持てる形で保管することができます。

住まいの外周りをチェックする

家の外だけではなく、外周りにも注意が必要です。以下のようない点をチェックしておきましょう。

●屋根がわらを固定する釘・針金等がもろくなっていないか

●外に面した窓ガラスの飛散防止処置をしているか

●テレビアンテナ、雨どい、エアコンの室外機などが落下する危険はないか

●ブロック塀の倒壊の危険はないか

●門扉やボストンのさび、壁面のひび割れなど、崩んでいる箇所がないか

●ベランダの植木鉢が地震の揺れで落としたりしないか

集合住宅の場合



集合住宅ではベランダが重要な避難経路になることがあります。非常に際には隣家のドアの修理をせり、ベランダを伝って避難することもありますから、ふだんから整頓を心がめましょう。



地上に出来るまでの避難経路は、必ず常に確保するので、常に片づけておきましょう。

●地盤で設置するときは、ガスレーバーは使用できません。たとえ動かせるガス栓になっていても、絶対に使ってはいけません。

●地盤で設置するときは、ガスレーバーは使用できません。たとえ動かせるガス栓になっていても、絶対に使ってはいけません。

○ 我が家の防災をチェックしよう。

家族の防災計画

- 家族の防災会議を開いている
- 家族の間で非常時の連絡先や連絡方法がわかる
- 震災時の避難場所と避難経路を家族全員が知っている
- 家族全員の血液型や健康状況などを把握している
- 地域の防災活動には積極的に参加する
- 非常時のペットへの対応を話し合っている
- 非常用持ち出し袋の中身がそろっている
- 備蓄用食料や避難生活用品の準備ができている
- 地震保険への加入や貴重品の管理など、資産へのケアをしている



地域の避難場所

場所の名称・住所などをメモしておきましょう

災害用伝言ダイヤル 171

大地震が起きたあとは電話が混じにくくなり、連絡がとれず不安な気持ちが高まつたります。NTTでは、災害時に「災害用伝言ダイヤル」を設け、家族同士、知人、親類との連絡用に使うようにしています。171にダイヤルして、あとは音声案内通りに操作すればいい。稼働できる伝話は30秒で、非常時の大さまで必要な連絡などにとても役立つ。詳細はNTTのホームページを参照のこと。



●特に枕元に置きたいもの

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 適切な金額の現金
- 防災頭巾
- 厚手のスリッパ
- クルマのキー



●非常用持ち出し袋

- リュック 避難時に両手がフリーになる。アウトドア用のデイパックは丈夫で収納性もよい。
- 救急キット できる限り自分で応急手当をする考え方で中身を決める。丈夫なアルミ缶などにまとめておくこと。
- 懐中電灯 丈夫で光量の強いものを。代わりにヘッドライトなら、両手が使えて活動的。
- 乾電池 定期的に充電を忘れずに。
- 携帯ラジオ 災害時の情報は貴重。
- 軍手・厚手のコート 救助、片づけそのほか、幅広い用途がある。
- 身分証明書やIDカード 健康保険証や免許証のコピー、家族の氏名・生年月日・血型等を記入したIDカードなどは、後の医療の受診や各種の手続きなどで役立つ。
- 使い捨てカイロ
- 予備のメガネ コンタクト使用の人も必須。
- 生理用品
- ボリ袋（大きさ各種） 大型で厚手のものはポリバケツと組み合わせて簡易トイレに。
- 家のスペアキー できれば家族全員につなづつ。
- 携帯食料・飲料水 備蓄用とは別。板チョコ、ブロック型食料など、かさばらず高栄養価のものを中心。ペットボトルの飲料水も2~3本入れておきたい。乳児のいる家は粉ミルクを忘れない。
- 筆記用具（手帳・ペーパー） 救援情報をメモするのに。油性マジックはメッセージ用に有用。
- ティッシュなど ティッシュ、トイレットペーパー、タオル等は必ず準備。ウエットティッシュは水の多い状況で大活躍。
- 雨ガッパ 商手が使える。濡れても体温を低下するのを防ぐ。
- その他 防災頭巾、防煙マスク、現金、すぐ持ち出せる貴重品、新聞紙など。

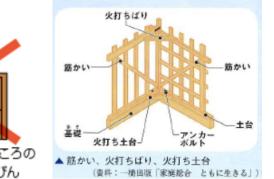


昔からある住まいのふく

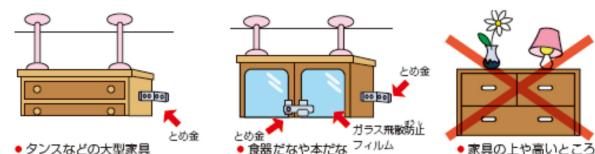
日本では、古くから住むをつくるときに、「薪かい」などの建物を強くするふくをしています。

「薪かい」は、柱と柱のあいだに、対角線方向に入れる部材で、建物が倒れにかかり、壁が倒れるのを防ぎます。

また、土台やはうの間に入れる「火打ち土台」「火打ち石」も、地震による建物の変形を防ぐふくです。



○ 地震に備えよう



§ 3 住居と家族の生活

① ライフステージに応じた住居の選択

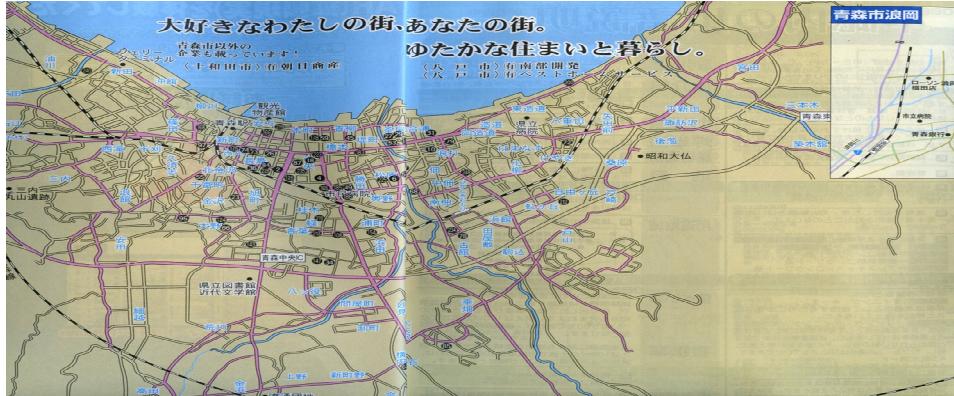
☆ 物件探しを通して平面図を読み取り、自分の生活を描く。

○これから役立つ！住んでみたい物件（賃貸）の条件を考えよう。

【就職して社会人や学生になり一人暮らしをする場合、どの物件を選びますか】



【イメージ図 賃貸物件の例を提示】



【イメージ図 賃貸物件の位置が把握できる地図を提示】

(できればスーパーや薬局、コンビニ、官公庁、公共交通機関等がみえるもの)

●個人の住要求 個人

物件を選ぶ条件は何か考えてみよう。優先順に書いてみよう。

条件 1

・理由

条件 2

・理由

条件 3

・理由

◇条件が決まったら友達と共有してみよう。 グループ

自分と違ったり同じだったりしたところはあったか

グループで話し合い、これは欠かせないという条件を出し、他のグループと比較しよう。

欠かせない条件はこれだ！

●図の中から、自分たちの条件に合った物件を選んでみよう。 グループ



私たちが選んだ物件は 番の物件です。

なぜなら、

だからです。

●不動産業の社員だったら、どのように物件を紹介するか。 グループ&グループ

不動産業の人になりきって、隣のグループに紹介してみよう。

どんな質問やアドバイスがあるか、消費者のニーズを体験してみよう。

他者からの質問やアドバイス

ゲストティーチャー
物件選びで失敗しないよう、物件のプロから、物件情報の読み取りに役立つ内容についてアドバイスをいただごう。

●生活の場としての住居の条件について、気付いたことは何か、今後の生活にどのように生かしたいか 個人

気付いたこと

今後の生活に生かしたいこと



② 安全で環境に配慮した住生活

☆ねらい 長い冬を快適に過ごす方法を知り、北国ならではの住まい方を考える。



図1 一般的な住宅の平面図及び外観

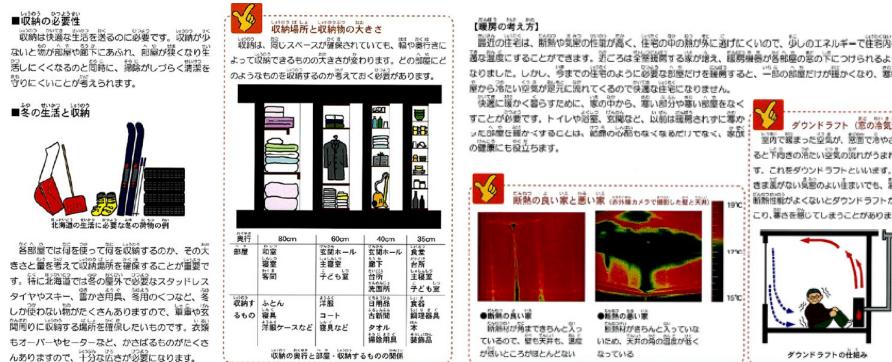


図2 窓の大きい平屋の平面図及び外観 (建築家の設計のやうなもの)

●図1、2の住居に住んだことを想像し、住み心地のよさを比較してみよう。

考えるヒント：間取り、方角、家族構成、季節

●図の住居が青森にあつたら、どのような生活の工夫が必要か、考えてみよう。



資料 収納と暖房（北海道住教育プログラム「北海道 住まい まち 暮らしより引用」）

●青森で、快適な冬を過ごす方法を見いだすことができましたか。今後の生活にどのように生かしたいですか。

気付いたこと



今後の生活に生かしたいこと

③ 家族の生活と住居の計画

☆ねらい ライフステージ毎に変化する住要求に気付き、住まい方について自分なりに考え、デザインすることができます。

●年齢に応じた人生設定をしながら、必要な「住まい」を書いてみよう。

20代～50代（設定）

- <例1>
- 既婚
- 子ども2人
- (男女)
- 親と暮らすかも？
- <例2>
- 独身
- アトリエ欲しい

どのような部屋が必要か？

60代～（設定）

- <例1>
- 既婚、親は死去
- 子どもは独り立ち
- 夫と2人暮らし
- <例2>
- 1人だと不安なので異性と共同生活

どのような部屋が必要か？

●ライフステージに対応した住まいを大切にしたデザインをする建築士の話

お話を聞いて、学んだことや感じたことを書いてみよう。

ゲストティーチャー
住む人の暮らし方や先を見通した設計をしている建築士の方からお話をきいてみよう



§ 4 私たちがつくる地域社会とのかかわり

① 共生の視点から見いだす地域の課題

(リビングリテラシー～青森県住生活リーフレット～使用)

☆ねらい 地域の生活を俯瞰し、高校生の視点で見える課題を整理し改善できることがあることに気付く。

●これまで学んできたことを活かして地域をみつめよう。



See

- Step1 問題発見
- Step2 テーマ決定

Plan

- Step3 計画

地域の生活の見つけ方：共生、住まい、防犯、防災、冬、雪、ライフステージ、空き家…など視点を絞る

Step1,2 地域の課題を洗いだし、解決するテーマを決めよう

- ①付箋紙に日頃課題だと思っていたことを書いてみよう
- ②書いた課題をグループ内で紹介し合い、グループで解決したい課題をまとめてみよう
- ③他のグループに紹介しよう
- ④同じような課題をあげているグループがあったら、合同チームになろう

Step3 計画を立ててみよう

- ①一人でできること
- ②グループでできること
- ③どのような方法で情報収集するか（調査・研究）
- ④解決方法は、どれくらい見つかり、どの方法を選んだか（改善内容）



②地域の課題の解決方策

☆ねらい 地域の課題を解決するための計画を立て、実践し、その結果を考察することで、自らが地域コミュニティを形成していく存在であることを認識する。

Do

- Step4 実施

See

- Step5 成果と課題、評価
- Step6 共有・発信



Step4 研究し、実践してみよう

- ①実施内容と結果を記録しよう

Step5 評価してみよう

- ①結果を考察してみよう（効果があったこと、課題となったこと、改善が必要なこと）

- ②自己評価してみよう

- ③家族や地域の方、友人のコメントをもらおう

- ④全体を振り返り今後の課題を考えよう

Step6 共有したり、まとめた内容を発信したりしよう

- ①自分の内容を分かりやすく説明しよう

- ②友人の内容を聞き、自分の生活に役立つヒントを見つけよう



実践して、気付いたこと、今後の生活に生かしたいこと